

音楽とカラーイメージの感性的対応について

Kansei Correspondence between Music and Color Image

山脇 一宏 (国立音楽大学) 椎塚 久雄 (工学院大学)

1. はじめに

人は音楽も色も同じ様に感覚的に捉えている。従来、音楽の感性的分類において、形容詞による分類は研究されているが、音楽とカラーイメージ[1]との感性的対応についての考察はなされていなかった。本稿では、音楽大学の学生72名を対象としたアンケートに基づいて感性的対応に関する基礎的考察を行った結果について示す。

2. サンプル曲の選定と質問

著者の一人が次の3点を考慮してピアノで演奏したオリジナルのサンプル曲を作った。同一のメロディーライン、同一の楽相の繰り返しとした。調性的にはDes dur (変二長調)として、転調・副和音を避けた。20秒程度で楽曲のイメージが拡散しない様に留意した。

この曲について以下に示す2つの系統の質問を行った。

系統1: X軸にWarm-Cool、Y軸にSoft-Hardのイメージを配し形容詞をマッピングしたイメージカラースケールに記載されている形容詞から56個を抽出してランダムに提示した。学生には楽曲のイメージに合致していると思うものを最大4つの選択を指示した。

系統2: 従来のSD法によるイメージ検索の手法を踏襲し、5段階評価で楽曲のイメージに合致するポイントを選択する方法を採った。設問のX-Y軸としては「暖かい 冷たい」及び「柔らかい 硬い」を採用した。

3. 結果

<系統1の評価> 一人当たりの持ち点を10点とし、1語のみ選択 10点。4語選択 それぞれ2.5点...として換算した。なお、記入漏れの学生もいた為、総合計710ptである。まず、選択頻度の高い順に羅列する。尚、%は総得点との比である。

かわいい	222.5pt	31.33%
子供らしい	159.1pt	22.40%
可憐な	59.8pt	8.42%
愉快的な	35.8pt	5.04%
楽しい	33.3pt	4.69%
みずみずしい	28.2pt	3.97%
素直な	21.6pt	3.04%
以上7形容詞合計	560.3pt	78.91%

各形容詞の評価値をイメージカラースケール上での形容詞の座標点にプロットした(図1参照)。

<系統2の評価> 5段階評価を得点化し得た平均値を示す(図2参照)。

4. むすび

系統1において高い評価の形容詞群を見て、一つの傾向を見出すのは難しい。しかし、イメージカラースケールの座標にプロットした図を見ると、ある傾向を読み取ることができる。系統2の平均値の座標と形容詞の座標位置は同じ象限には存在するものの、平均値がその楽曲の性格を端的に示しているとはいいがたい。

イメージカラースケールにおいて、座標点に近いと色彩的にそのイメージが似通っている事になる。音楽においても色彩同様に似通ったイメージに評価が集中する傾向が見えた。この傾向から、イメージスケールを使った音楽の分類の可能性を見出すことができた。

図1 形容詞の評価値

図2 5段階評価の平均値

参考文献: [1]新・カラーイメージ事典、p.89、講談社。